

(様式第10)

富大杉病 第 185 号
令和 6 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿 開設者名 国立大学法人富山大学
学長 齋藤 滋

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒930-8555 富山県富山市五福3190番地
氏名	国立大学法人富山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人富山大学附属病院

3 所在の場所

〒930-0194 富山県富山市杉谷2630番地
電話(076) 434 - 2315

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科	<input type="radio"/> 3循環器内科	<input type="radio"/> 4腎臓内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科	<input type="radio"/> 7内分泌内科	<input type="radio"/> 8代謝内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/> 11リウマチ科	

診療実績

腎臓内科、内分泌内科、代謝内科、アレルギー科、リウマチ科については、それぞれ他の診療科において医療を提供している。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科	
診療実績							
内分泌外科については、他の診療科において医療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科		2小児科		3整形外科		4脳神経外科	
5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科		8産科	
9婦人科		10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科	
13放射線診断科		14放射線治療科		15麻酔科		16救急科	

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	漢方内科	2	病理診断科	3	形成外科	4	美容外科	5	リハビリテーション科
6	小児皮膚科	7	小児神経外科	8	小児眼科	9	小児耳鼻咽喉科	10	小児形成外科
11	小児泌尿器科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43	3			566	612

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	393	34	405.8
歯科医師	12	3	12.8
薬剤師	47	0	47
保健師	0	0	0
助産師	50	3	50.9
看護師	699	9	705.6
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	2	4.7
管理栄養士	12	4	16

職種	員数
看護補助者	36.9
理学療法士	21.1
作業療法士	8
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	25
栄養士	11.7
歯科技工士	0
診療放射線技師	40

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	51.3
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	0	
その他の技術員	51.2	
事務職員	134.6	
その他の職員	30.7	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	57	眼科専門医	8
外科専門医	31	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	6	放射線科専門医	14
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	12
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	18
産婦人科専門医	21	救急科専門医	6
		合計	237

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (林 篤志) 任年月日 平成 31 年 4 月 1 日

平成30年4月1日から、医療安全管理委員会構成員。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	443.4 人	9.6 人	453 人
1日当たり平均外来患者数	1157.4 人	81.6 人	1239 人
1日当たり平均調剤数	320.82		剤
必要医師数	113.3		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	16		人
必要(准)看護師数	269		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	25 床	心電計	有
集中治療室	459.17 m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	298.61	m ²	病床数	27 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	36		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	432 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	臨床検査自動化システム、血液ガス分析統合管理システムなど		
細菌検査室	96 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway96Siリファージュなど		
病理検査室	113 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理診断支援システム、バーチャルスライドシステムなど		
病理解剖室	78 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など		
研究室	7252 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細胞分析分取装置、電子線照射装置など		
講義室	353 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	388 人
図書室	3276 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約21万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.5	%	逆紹介率	71.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11313		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10932		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1863		人
	D: 初診の患者の数		15240		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
高村 博之	金沢医科大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
三善 郁代	富山県立大学看護学部		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
富山大学ホームページへの掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	2人
先進医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	2人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術	2人
S - 1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	5人
術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブ パクリタキセル静脈内投与の併用療法	3人
ウイルスに起因する難治性の眼疾患に対する迅速診断(PCR法)	2人
先進医療の種類合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	12人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経気管支的クライオ生検	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 肺の組織を採取するために凍結技術を使用する手法であり、従来の経気管支的鉗子生検に比べ大きな組織サンプルを採取できるため組織構造の全体像の把握に優れ、同時に外科的肺生検と比較して患者への負担が軽度である。			
医療技術名	経気管支的超音波画像下リンパ節生検	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 気管支鏡と超音波技術を併用して縦隔リンパ節に対する穿刺生検を行う技術であり、肺癌のリンパ節転移、悪性リンパ腫やサルコイドーシス、結核などの感染症によるリンパ節炎の診断が可能である。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。(冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009)			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	367人
当該医療技術の概要 冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓治療	取扱患者数	01人
当該医療技術の概要 薬物療法不応性の重症心不全患者に対し植込み型補助人工心臓を装着し、心不全治療をおこなっている。			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	198人
当該医療技術の概要 抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 手術に耐えられない、あるいは手術リスクが非常に高い患者さんに対して、カテーテルを用いた体への負担が小さい治療であるTAVI(バルーンカテーテルに人工弁を乗せて大動脈弁まで運び、バルーンを拡張して留置する手術)を行っている。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)による重症心不全管理	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対する経皮的補助循環装置である。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復システム	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 外科的治療が困難な重度の僧帽弁閉鎖不全症の患者に対して行う、経カテーテルに僧帽弁接合不全を修復する治療			

医療技術名	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 通常の治療で十分な効果が得られない難治性皮膚潰瘍に対して、患者から採取した多血小板血漿を創部に投与し潰瘍の上皮化を促進を図る			
医療技術名	難治性足底疣贅に対するスキャナ搭載炭酸ガスレーザー治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 足底疣贅は液体窒素などの一般的な疣贅治療に抵抗性を示し、難治性であることが多い。当科ではスキャナ搭載型CO2レーザーを用いて真皮深層レベルまでの過不足ない照射を行うことで、高い治癒率を得ている。			
医療技術名	乳児血管腫に対する集学的治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 発症部位やサイズより通常の治療が困難な乳児血管腫に対して、プロプラにロール内服とレーザー照射を組み合わせる血管腫の治療を行う。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤に対するコイル塞栓術は一般に広く行われているが、頸部の広い動脈瘤の場合は治療が困難である。そのような場合にはステントを併用してコイル塞栓術を実施する必要があるが、治療技術には数多くの工夫や経験が必要である。北陸で最多。			
医療技術名	内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 手術顕微鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体手術は以前から広く実施されているが、高精細の神経内視鏡を用いた経蝶形骨洞下垂体は、特殊なトレーニングを要するが、従来では完全に治療できなかった下垂体腫瘍も治療することが可能である。県内では最多。			
医療技術名	脳動脈瘤頸部クリッピング術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の根治術として古くから実施されている治療であるが、安全性を担保した上での治療を目指す場合、その技術的難易度は依然として高く、システムティックなトレーニングと多数の臨床経験を要する。県内では最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	もやもや病に対する複合バイパス術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 もやもや病に対するバイパス手術は、対象となる動脈径が0.3～1.0mmと極細径で高度のトレーニング、手術技術を要する。中部地域では当院が最多の手術件数を誇っている。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 治療困難な内頸動脈瘤に対するフロー・ダイバーターを用いた血管内治療は、きわめて高度の技術を必要とし、学会からその実施を認可されている施設は北陸では当院が唯一である。			
医療技術名	小児脳・脊髄奇形に対する根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児の脳および脊髄の解剖、機能、病態を深く理解するとともに多数の治療経験が必要である。当院には2名の小児神経外科学会認定医が在籍しており、北陸では唯一の施設である。			
医療技術名	悪性リンパ腫に対する大量メソトレキセート化学療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 本疾患に対する大量メソトレキセート化学療法は副作用も多く、周到な準備と管理が必要である。血液内科、放射線科との緊密な連携も必要である。県内では最多の治療実績を有している。			
医療技術名	がんゲノム医療(遺伝子パネル検査の実施)	取扱患者数	153人
当該医療技術の概要 本検査は治療法が見つからないがん患者検体よりがん特有の遺伝子変異を同定し、薬剤を検討するものである。がんゲノム医療拠点病院である当院では院内エキスパートパネルで多数の専門家が集まり、高度な議論の上、治療薬の推奨を行っている。			
医療技術名	変形を伴う股関節疾患におけるナビゲーション手術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 臼蓋形成不全などの変性の強い股関節疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			

医療技術名	変形を伴う脊椎疾患におけるナビゲーション手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 側彎などの変性の強い脊椎変形疾患に対しナビゲーション手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	膝疾患におけるロボット手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 変形性膝関節症に対しロボットを用いた手術を行うことにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	脊椎疾患における3Dモデルと鋳型デバイスを用いた手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脊椎疾患に対し3Dモデルと鋳型デバイスを用いることにより安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	四肢悪性腫瘍に対する3Dモデルとオリジナルデバイスを用いた再建手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 四肢悪性腫瘍疾患に対し3Dモデルとオリジナルデバイスを用いることにより、再建を容易なものとし安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	上肢疾患におけるwide awake surgery	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 局所麻酔剤を用いwide awake surgeryを行うことにより、機能再建を安全かつ正確に手術を行うことができる。			
医療技術名	脊椎ロボットを用いたナビゲーション手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 脊椎ロボットを用い胸腰椎の椎弓根スクリューを正確に挿入することができる。			
医療技術名	子宮内感染症起炎菌の迅速検査法と適切な抗菌薬治療の実施	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 切迫早産、早産例の羊水中の病原微生物を、当院で開発した偽陽性のない迅速高感度PCR法にて検出し、適切な抗菌薬治療を行っている。本迅速検査法を用いて切迫早産治療に役立っているのは、当院のみである。また、原因究明にも役立っている。			
医療技術名	培養脂肪幹細胞付加脂肪注入による乳がん術後の乳房再建	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 乳がん患者の脂肪20gから抽出した脂肪幹細胞を培養により大量に増やし凍結保存する。次に患者の腹部、大腿部から吸引した脂肪を遠心して精製した後に、解凍した培養脂肪幹細胞を付加し、脂肪注入の生着率を高め、低侵襲な乳房再建を行う。			
医療技術名	ルテチウムオキシドトレオチド(Lu-177)注射液を用いる核医学治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ルテチウムオキシドトレオチド(177Lu)注射液を用いたソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法である。			
医療技術名	塩化ラジウム(Ra-223)注射液を用いる内用療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 放射性塩化ラジウム注射液を用いた骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者に対して行うRI内用療法である。			
医療技術名	婦人科腫瘍に対する組織内照射併用腔内照射	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腔内照射と組織内照射のそれぞれの利点と欠点を補い合う発想で、通常の腔内照射に組織内照射針を組み合わせた照射方法である。			
医療技術名	経皮的肺動脈弁留置術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 先天性心疾患術後の高度肺動脈弁逆流、右心不全に対して、カテーテルを用いて生体弁を留置する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計	39
取扱い患者数の合計(人)	1443人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	37
2	筋萎縮性側索硬化症	29	57	特発性拡張型心筋症	56
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	16
4	原発性側索硬化症	4	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	19	60	再生不良性貧血	12
6	パーキンソン病	185	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	58	66	IgA 腎症	26
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	30
13	多発性硬化症 / 視神経脊髄炎	102	68	黄色靱帯骨化症	16
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 / 多巣性運動ニューロパチー	45	69	後縦靱帯骨化症	64
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	24
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	5
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	128	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	50
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	29	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	46
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	22
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己食食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症 / 肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	24
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管腫症	7
35	天疱瘡	8	90	網膜色素変性症	53
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	29
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	147
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	134
43	顕微鏡的多発血管炎	18	98	好酸球性消化管疾患	12
44	多発血管炎性肉芽腫症	13	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	13	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	3	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	181	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎 / 多発性筋炎	80	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	39	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎	5
53	シェーグレン症候群	53	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	11	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数	
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡		0	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)		10	
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症		1	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症		0	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎		0	
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫		0	
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群		0	
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群		0	
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病		0	
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群		0	
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病		5	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症		0	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群		0	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病		0	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群		0	
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群		0	
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群		0	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群		0	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群		0	
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群		0	
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群		0	
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群		0	
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群		0	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群		0	
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群		0	
136	片側巨脳症	0	186	ロスモンド・トムソン症候群		0	
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群		0	
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群		0	
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群		1	
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群		0	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群		0	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群		0	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群		1	
144	レノックス・ガスター症候群	0	194	ソトス症候群		0	
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群		0	
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群		0	
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群		0	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群		0	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群		0	
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群		0	
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群		0	
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群		0	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群		0	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群		0	
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患		0	
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群		0	
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症		1	
158	結節性硬化症	9	208	修正大血管転位症		1	
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症		0	
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症		4	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	3	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	9	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	24	270	慢性再発性多発性骨髄炎	5
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	19
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	2
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症(自己免疫性後天性凝固第 因子欠乏症)	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	9
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	47

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクローヌステんかん	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 ケトチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	1
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症	0
		331 特発性多中心性キャスルマン病	0
		332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
		334 脳クレアチン欠乏症候群	0
		335 ネフロン癆	0
		336 家族性低リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
		337 ホモシスチン尿症	0
		338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	131
合計患者数(人)	2317

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・報告書管理体制加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料 (入院栄養管理体制加算)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1入院基本料	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・呼吸ケアチーム加算
・診療録管理体制加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・医師事務作業補助体制加算 1 20対1	・後発医薬品使用体制加算 1
・急性期看護補助体制加算(25対1, 5割以上) (夜間100 対1急性期看護補助体制加算) (夜間看護体制加算) (看護 補助体制充実加算2)	・病棟薬剤業務実施加算 1
・看護職員夜間12対1配置加算 1	・病棟薬剤業務実施加算 2
・看護補助加算 2 (看護補助体制充実加算2)	・データ提出加算 2
・療養環境加算	・入退院支援加算 1, 3 (地域連携診療計画加算)(入院時 支援加算)
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算 2
・無菌治療室管理加算 1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算 2	・精神疾患診療体制加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による 場合)	・精神科急性期医師配置加算2 イ精神病棟入院基本料等 の場合
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料4(早期栄養介入管 理加算)
・精神病棟入院時医学管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料 1
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1, 2(成育連携支援 加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料 2 注2加算(養育支援体制加算) (無菌治療管理加算1,2)
・栄養サポートチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算 1	・歯科外来診療医療安全対策加算 2
・感染対策向上加算 1(指導強化加算)	・歯科外来診療感染対策加算 3
・患者サポート体制充実加算	・入院時食事療養/生活療養()
・重症患者初期支援充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・外来腫瘍化学療法診療料 注9(がん薬物療法体制充実加算)
・外来栄養食事指導料 注3	・ニコチン依存症管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料 注5(遠隔モニタリング加算)	・療養・就労両立支援指導料 注3(相談支援加算)
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦共同管理料()
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん治療連携計画策定料
・がん患者指導管理料 イ	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん患者指導管理料 ロ	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料 ハ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料 ニ	・薬剤管理指導料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料 1(生命維持装置使用)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料 2(放射線治療計画策定)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・救急患者連携搬送料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(及び皮下連続式グルコース測定)(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(及び皮下連続式グルコース測定)(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査 注1
・二次性骨折予防継続管理料1	・染色体検査 注2
・二次性骨折予防継続管理料3	・骨髄微小残存病変量測定
・下肢創傷処置管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・院内トリアージ実施料	・がんゲノムプロファイリング検査
・夜間休日救急搬送医学管理料 注3(救急搬送看護体制加算2)	・角膜ジストロフィー遺伝子検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 1	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・連携充実加算	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・冠動脈CT撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・心臓MRI撮影加算
・検体検査管理加算()	・乳房MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・外来化学療法加算 1
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・無菌製剤処理料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・心大血管疾患リハビリテーション料()初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・胎児心エコー法	・脳血管疾患等リハビリテーション料()初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・ヘッドアップティルト試験	・運動器リハビリテーション料()初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・呼吸器リハビリテーション料()初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・脳磁図(その他のもの)	・がん患者リハビリテーション料
・脳波検査判断料 1	・リンパ浮腫複合的治療料
・神経学的検査	・認知療法・認知行動療法 1
・補聴器適合検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・全視野精密網膜電図	・医療保護入院等診療料
・ロービジョン検査判断料	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算 1
・小児食物アレルギー負荷検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算 1
・内服・点滴誘発試験	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算 1
・経頸静脈の肝生検	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・経気管支凍結生検法	・多血小板血漿処置
・画像診断管理加算 2	・硬膜外自家血注入
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)	・導入期加算 3 及び腎代替療法実績加算
・CT撮影及びMRI撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術 型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ストーマ合併症加算	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・後縦韌帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・椎間板内酵素注入療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・腫瘍脊椎骨全摘出術	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄も膜炎手術(脊髄も膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胸腔鏡下弁形成術
・網膜再建術	・胸腔鏡下弁置換術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・人工中耳植込術	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペース機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペース機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・同種死体腎移植術
・両室ペース機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペース機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・生体腎移植術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・精巣温存手術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下胃縮小術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・体外式膜型人工肺管理料
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・生体部分肝移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・外来・在宅ベースアップ評価料()
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出手術)	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料()
・輸血管理料	・入院ベースアップ評価料73
・輸血適正使用加算	・医療機器安全管理料(歯科)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・貯血式自己血輸管理体制加算	・歯科治療時医療管理料
・自己生体組織接着剤作成術	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・自己クリオプレシペート作製術(用手法)	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・精密触覚機能検査
・麻酔管理料()	・歯科口腔リハビリテーション料 2
・麻酔管理料()	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・放射線治療専任加算	・歯周組織再生誘導手術
・外来放射線治療加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・高エネルギー放射線治療	・歯根端切除手術の注3
・1回線量増加加算	・口腔病理診断管理加算 2
・強度変調放射線治療(IMRT)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・看護職員処遇改善評価料G2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・流産検体を用いた染色体検査	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に1回程度開催	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	29
	剖検率(%)	11.5

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血小板由来増殖因子による脳の老化制御機構の解明	笹原 正清	医学部	5,460,000	① 日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球の抗原同定を目指した開発研究	小林 栄治	医学部	5,460,000	① 日本学術振興会
採血後4hでの起炎菌迅速同定・定量検査法を用い「菌数」をバイオマーカーとする研究	仁井見 英樹	医学部	4,160,000	① 日本学術振興会
骨髄間質細胞由来細胞外小胞を用いた脳梗塞の包括的再生治療研究	黒田 敏	医学部	5,850,000	① 日本学術振興会
オートファジー機能低下による妊娠高血圧症候群～治療開発およびその起源の追究～	中島 彰俊	医学部	5,850,000	① 日本学術振興会
発達期のNAD代謝は老年期の運動能力を運命づけるのか？	中川 崇	医学部	5,460,000	① 日本学術振興会
口腔細菌由来プロテアーゼからのCOVID-19病態解明～新規重症化制御法への展開	森永 芳智	医学部	6,630,000	① 日本学術振興会
糖尿病とうつ病の嗅覚/オレキシン系のレジリエンス促進による運動的治療法の開発	笹岡 利安	薬学部	7,020,000	① 日本学術振興会
法医剖検脳のリサーチリソース化とその特性を生かした多角的臨床病理研究	西田 尚樹	医学部	8,320,000	① 日本学術振興会
慢性疼痛の中樞性感作による行動変容の神経機構解明	西丸 広史	医学部	3,640,000	① 日本学術振興会
心臓の働きの不思議:心臓を見て聞いて感じてみよう!	廣野 恵一	附属病院	450,000	① 日本学術振興会
メモリー様分化誘導を基盤とした多種類のがんに有効なCAR-NK細胞製剤の新規開発	今井 千速	医学部	3,904,289	① 日本学術振興会
周期アノフィラキシーにおける肥満細胞の役割の解明	高澤 知規	医学部	1,556,333	① 日本学術振興会
地域在住高齢者の足趾運動の効果と転倒との関連 ロコモティブシンドロームを改善する	金森 昌彦	医学部	1,040,000	① 日本学術振興会
てんかん患者における全身麻酔不安定化メカニズムの解明と安全な麻酔法の確立	佐々木 利佳	医学部	520,000	① 日本学術振興会
幼少期のストレス経験が成体の行動を変容させる:外側手綱核と不安・うつ	一條 裕之	医学部	780,000	① 日本学術振興会
新規DPP8阻害剤による血液悪性腫瘍の治療開発とバイオマーカーの同定	佐藤 勉	附属病院	780,000	① 日本学術振興会
急性期脳梗塞治療のためのDual-energy CT画像診断プロトコルの開発	野口 京	医学部	520,000	① 日本学術振興会
アクティブターゲティングを利用した金ナノ粒子による放射線癌細胞死の増強	近藤 隆	医学部	1,300,000	① 日本学術振興会
重症心不全患者における消化管出血発症のメカニズムとアンジオペプチド2の関連	中村 牧子	附属病院	390,000	① 日本学術振興会
孤立性右室低形成の全国実態調査と遺伝学的病態解明	小澤 綾佳	附属病院	1,040,000	① 日本学術振興会
角化におけるDNA分解機序の解明と創薬への展開	牧野 輝彦	医学部	1,430,000	① 日本学術振興会
皮膚疾患の病態におけるD-DTの機能解析と新規治療法開発への展開	清水 忠道	医学部	1,300,000	① 日本学術振興会
1型糖尿病に対する膵島特異的自家樹状細胞ワクチン開発のための基盤研究	中條 大輔	附属病院	1,430,000	① 日本学術振興会
血管リモデリングが誘導する脂肪幹細胞制御因子の同定による新規肥満病態改善法の創出	和田 努	薬学部	1,300,000	① 日本学術振興会
AIを用いた血中癌細胞識別による食道癌化学療法効果予測アルゴリズムの確立	奥村 知之	附属病院	1,300,000	① 日本学術振興会

がん転移におよぼす麻酔薬の相違:腫瘍免疫に注目したin vivo 転移モデルの解析	松尾 光浩	医学部	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
妊娠中期の頸管長短縮メカニズムの解明と超早産児低減への臨床応用	米田 哲	医学部	780,000	⑦ 補委	日本学術振興会
水素ガス吸入による網膜動脈閉塞症治療への展開	林 篤志	医学部	1,560,000	⑦ 補委	日本学術振興会
脂肪組織由来幹細胞を用いたサルコペニアの予防と治療に関する基礎研究	佐武 利彦	附属病院	780,000	⑦ 補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤メカニズムの分子生物学的検討	山田 慎一	医学部	1,820,000	⑦ 補委	日本学術振興会
地域に特化した医療人材育成カリキュラム開発:地域医療者教育に必要な社会学の視点	高村 昭輝	医学部	1,560,000	⑦ 補委	日本学術振興会
多発性硬化症の認知症・疲労・うつに対する経頭蓋直流電気刺激療法(tDCS)の開発	中辻 裕司	附属病院	1,170,000	⑦ 補委	日本学術振興会
脳波・MRIによる脳内ネットワークのダイナミズムの評価と脳血管障害への臨床応用	服部 憲明	附属病院	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
消化器癌における血中循環腫瘍細胞のクラスター化阻害に着目した新規治療開発	三輪 武史	附属病院	1,300,000	⑦ 補委	日本学術振興会
心房細動における代謝プログラミング~メタボロミクスによる全容解明の試み~	片岡 直也	医学部	1,300,000	⑦ 補委	日本学術振興会
事象関連電位と睡眠脳波を用いた精神病発症リスク状態の診断的および機能的転帰予測	樋口 悠子	附属病院	390,000	⑦ 補委	日本学術振興会
免疫ブースト効果によるがんの放射線治療効果向上の試み	渡部 明彦	附属病院	1,560,000	⑦ 補委	日本学術振興会
I-131 MIBG治療によるリンパ球の放射線組織障害の研究	道合 万里子	医学部	650,000	⑦ 補委	日本学術振興会
MYH7の多様性に着目した心筋緻密化障害の病態の解明	廣野 恵一	附属病院	910,000	⑦ 補委	日本学術振興会
フォンタン術後のタンパク漏出性胃腸症の早期発見と治療に向けた基盤の構築	伊吹 圭二郎	附属病院	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
唾液中薬物濃度を新たな指標とする非侵襲的抗MRSA薬TDMの創出	山本 善裕	医学部	910,000	⑦ 補委	日本学術振興会
マクロファージによる肥満誘発性発癌機構の解明	角 朝信	医学部	1,690,000	⑦ 補委	日本学術振興会
乳癌の個別化医療を目指した次世代AIによるリキッドバイオプシーの高度化	渋谷 和人	医学部	1,300,000	⑦ 補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸の血管内皮グリコカリックスにおける機能の解析	土井 智章	医学部	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
脳脊髄液循環路(経路と組織構造)の解明とその経路の臨床への応用	赤井 卓也	医学部	1,430,000	⑦ 補委	日本学術振興会
IL-23/IL-17/ペリオスチン経路を介した後縦靭帯骨化症骨化薬への治療戦略	川口 善治	医学部	1,300,000	⑦ 補委	日本学術振興会
近赤外線分光法を用いた持続性知覚性姿勢誘発めまいの他覚的評価システム構築	將積 日出夫	医学部	520,000	⑦ 補委	日本学術振興会
眼瞼脂腺癌のpagetoid spread におけるエピジェネティックな病態解明	柚木 達也	医学部	1,950,000	⑦ 補委	日本学術振興会
機械学習による地域間健康格差のモデル化ー国保特定健診・医療費データによる分析ー	関根 道和	医学部	910,000	⑦ 補委	日本学術振興会
ケトン体システムを用いた新たな生活習慣病予防基盤の確立	稲寺 秀邦	医学部	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
小学生におけるインターネットの病的利用と健康障害:大規模疫学研究	山田 正明	医学部	1,950,000	⑦ 補委	日本学術振興会
法医解剖例における心アミロイド沈着の組織学的検討と突然死リスクファクターの解析	一萬田 正二郎	医学部	780,000	⑦ 補委	日本学術振興会
Tmマッピング法による新生児敗血症の迅速診断と最適治療への展開	田村 賢太郎	附属病院	1,170,000	⑦ 補委	日本学術振興会
microRNAに着目した川崎病冠動脈瘤での血管微小粒子役割解明と創薬標的検索	仲岡 英幸	附属病院	1,560,000	⑦ 補委	日本学術振興会
肥満症に対する -ケトグルタル酸のエピゲノム創薬への応用	岡部 圭介	附属病院	1,820,000	⑦ 補委	日本学術振興会
前頭前野機能と遷延性術後痛発症との関係の解明による新しい予防法の開発	日比 大亮	附属病院	910,000	⑦ 補委	日本学術振興会
単一T細胞トランスクリプトーム解析による妊娠高血圧腎症治療のバイオマーカー探索	津田 さやか	附属病院	910,000	⑦ 補委	日本学術振興会
口腔癌に対する癌浸潤ミエロイド系細胞を標的とした免疫学的治療戦略の開発	立浪 秀剛	医学部	1,560,000	⑦ 補委	日本学術振興会
早期精神病におけるマルチモダリティ脳指標は認知機能軌跡を予測するか:アジア多施設研究	笹林 大樹	附属病院	1,040,000	⑦ 補委	日本学術振興会
脂肪組織常在性マクロファージに着目した糖代謝・脂質代謝恒常性維持機構の解明	西村 歩	附属病院	1,690,000	⑦ 補委	日本学術振興会

無菌およびノトパイオートをを用いた腸内細菌叢による栄養吸収調節機構の解明	渡邊 善之	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
初期卵胞発育促進因子を用いた卵巣機能低下症の治療法の開発	伊東 雅美	附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
父親抗原認識における樹状細胞の役割と妊娠免疫寛容の誘導	安田 一平	附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
パンデミックにおける適切な学校感染対策のための教育と小児医療の連携モデルの構築	高崎 麻美	医学部	390,000	補委	日本学術振興会
COVID-19重症化を予防する中和活性レベルの特定とワクチン接種計画への展開	川筋 仁史	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
外分泌腺における放射線障害の分子病態解明	内田 仁司	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症の病態形成機構におけるCD4陽性細胞と絨毛細胞の細胞間相互作用の解明	津田 さやか	附属病院	15,470,000	補委	日本学術振興会
発達障害特性に着目した神経発達連続体としての精神病発症リスク状態の病態解明	辻井 農垂	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
Large-HBs抗原解析によるB型肝炎ウイルス感染症の病態解明と新規バイオマーカーの開発	田尻 和人	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
膵頭十二指腸切除周術期に複合的迅速微生物検査を応用した新たな抗菌治療戦略の構築	藤井 努	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
アロ抗原誘導型Treg細胞治療によるラット肺移植Operational Tolerance誘導研究	土谷 智史	附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
深層学習による手術画像を用いた末梢型肺腺癌の臍側胸膜浸潤予測に関する検討	嶋田 喜文	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
人工頭脳による神経ネットワーク解析を基盤とする次世代型麻酔深度モニター開発	廣田 弘毅	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
CRPSのwarm期に特異的な痛み関連シグナルとしてのmicroRNAの探索	竹村 佳記	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
マウス中大脳動脈閉塞モデルに対するMuse細胞経鼻投与の有効性の検証	山本 修輔	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
sc-RNAseq解析での高純度細胞体による椎間板再生とc-fos/AP-1阻害薬の疼痛制御機構	関 庄二	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
CIMP陽性腎細胞がんに対するオーロラキナーゼ阻害薬治療確立のための前臨床研究	北村 寛	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
尿路上皮がんに対する新規エピゲノム解析による治療効果予測バイオマーカー開発	西山 直隆	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
リハビリテーション治療の最適化に向けたがん患者の疲労課題における筋シナジー解析	乙宗 宏範	附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
低酸素誘発因子に焦点を当てた川崎病の血管炎における病態の解明	岡部 真子	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
KRAS codon61 変異に着目した膵癌の臨床病理学的・分子生物学的解析	高木 康司	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
便プロテオーム解析による膵癌の新規バイオマーカーの探索研究	元尾 伊織	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
COVID-19モデルでの濾胞性ヘルパーT細胞による免疫応答修飾機構の解明	川筋 仁史	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
フォンタン循環におけるエンドセリンの包括的な役割の追求	青木 正哉	医学部	1,040,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎腫瘍性病変の分子生物学的解析に基づく内視鏡的切除術適応の確立	渡辺 憲治	附属病院	260,000	補委	日本学術振興会
Elucidating the role of NAD+ metabolism in osteoporosis	Karim Maria m	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
Ex vivo肺がんモデルにおけるメカニカルストレスの解析	北村 直也	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
前庭機能と認知障害:前庭リハビリテーションによる加齢性認知障害の予防	森田 由香	医学部	520,000	補委	日本学術振興会
NAD代謝の破綻による老化メカニズムの解明	中川 崇	医学部	21,865,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血液悪性腫瘍の生存に必須の酵素に対する阻害剤の検証	佐藤 勉	附属病院	3,982,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌叢を基盤とした薬剤耐性菌定着リスクスクリーニングに関する研究	森永 芳智	医学部	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
覚醒 - 睡眠状態で変化する情報処理様式の法則性と意義の解明	高澤 知規	医学部	4,959,318	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Fukasawa M, Watanabe T, Tanaka H, Itoh A, Kimura N, Shibuya K, Yoshioka I, Murotani K, Hirabayashi K, Fujii T.	病理診断学講座	Efficacy of staging laparoscopy for resectable pancreatic cancer on imaging and the therapeutic effect of systemic chemotherapy for positive peritoneal cytology.	J Hepatobiliary Pancreat Sci/20230926	Original Article
2	Shimada Y, Ojima T, Takaoka Y, Sugano A, Someya Y, Hirabayashi K, Homma T, Kitamura N, Akemoto Y, Tanabe K, Sato	病理診断学講座	Prediction of visceral pleural invasion of clinical stage I lung adenocarcinoma using thoracoscopic images and deep learning.	Surg Today/20231020	Original Article
3	Watanabe Y, Fujisaka S, Morinaga Y, Watanabe S, Nawaz A, Hatta H, Kado T, Nishimura A, Bilal M, Aslam MR, Honda K, Nakagawa Y,	病理診断学講座	Isoxanthohumol improves obesity and glucose metabolism via inhibiting intestinal lipid absorption with a bloom of Akkermansia muciniphila in mice.	Mol Metab/20230915	Original Article
4	Akiteru Takamura, Ako Machino, Yukari Sugiyama, Atsunori Sako, Kosuke Kohashi, Chizuru Yabe, Hidefumi Ichinose, Fuminao	医学教育学講座	The present circumstances of pediatric practice by family physicians in Japan.	Journal of General and Family Medicine/20230000	Original Article
5	Imamura T, Izumida T, Narang N, Onoda H, Nakagaito M, Tanaka S, Nakamura M, Ushijima R, Fujioka H, Kakeshita K,	内科学(第二)	Association between Remote Dielectric Sensing and Estimated Plasma Volume to Assess Body Fluid Distribution.	J Clin Med/20230106	Original Article
6	Koike T, Imamura T, Tomoda F, Ohara M, Fujioka H, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Factors Associating with Non-Dipping Pattern of Nocturnal Blood Pressure in Patients with Essential Hypertension.	J Clin Med/20230110	Original Article
7	Imamura T, Hori M, Narang N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic Implication of Small Dense LDL-Cholesterol Levels following Acute Coronary Syndrome.	Medicina (Kaunas)/20230112	Original Article
8	Fujioka H, Koike T, Imamura T, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Implication of changes in xanthine oxidase activity following hemodialysis.	BMC Nephrol/20230116	Original Article
9	Kataoka N, Imamura T, Uchida K, Koi T, Nakamura M, Kinugawa K.	内科学(第二)	Urgent catheter ablation in Japanese patients with mechanical circulatory supports suffering from refractory ventricular electrical storm.	J Cardiol/20230200	Original Article
10	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, Fujioka H, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Impact of urine cyclic AMP relative to plasma arginine vasopressin on response to tolvaptan in patients with chronic kidney disease and heart failure.	Clin Exp Nephrol/20230208	Original Article
11	Koi T, Kataoka N, Uchida K, Imamura T, Kinugawa K.	内科学(第二)	Urinary isoxanthopterin as a novel predictor following catheter ablation for atrial fibrillation.	J Arrhythm/20230227	Original Article
12	Imamura T, Narang N, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic Impact of Baseline Six-Minute Walk Distance following Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20230326	Original Article
13	Imamura T, Narang N, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic Impact of Polypharmacy following Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20230330	Original Article
14	Fujioka H, Koike T, Imamura T, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic impact of renal sinus fat accumulation in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol/20230424	Original Article

15	Imamura T, Fujioka H, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K. (equal contribution).	内科学 (第二)	Prognostic Impact of Psoas Muscle Mass Index following Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20230509	Original Article
16	Imamura T, Narang N, Onoda H, Tanaka S, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Negative Prognostic Impact of Mineralocorticoid Receptor Antagonist in Elderly Patients Receiving TAVR.	J Clin Med/20230529	Original Article
17	Nakamura M, Imamura T, Ushijima R, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Prognostic Impact of the Increase in Cardiac Troponin Levels during Tafamidis Therapy in Patients with Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	J Clin Med/20230612	Original Article
18	Nakamura M, Imamura T, Ueno H, Kinugawa K, J-PVAD Investigators.	内科学 (第二)	Sex-Related Differences in Short-Term Prognosis in Patients with Acute Myocardial Infarction-Related Cardiogenic Shock Receiving Impella Support in Japan: From the J-PVAD	Medicina (Kaunas)/20230627	Original Article
19	Nakamura M, Imamura T, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Initial Experience of Vericiguat Treatment in Patients with Heart Failure and Reduced Ejection Fraction.	J Clin Med/20230629	Original Article
20	Nakamura M, Imamura T, Izumida T, Nakagaito M, Ushijima R, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Feasibility and Efficacy of Exercise Training Concomitant with Re-Assessment of Medical Therapy in Patients with Heart Failure Receiving Intravenous Inotropes.	Int Heart J/20230700	Original Article
21	Nomoto Y, Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	How to treat atrial fibrillation in patients with cardiac amyloidosis.	Eur Heart J Open/20230705	Original Article
22	Onoda H, Imamura T, Ueno H, Oshima A, Ueno Y, Ushijima R, Sobajima M, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Prognostic impact of elevated erythropoietin levels in patients with severe aortic stenosis receiving transcatheter aortic valve implantation.	J Cardiol/20230720	Original Article
23	Ito S, Takahama H, Asakura M, Abe Y, Ajioka M, Anzai T, Arikawa T, Hayashi T, Higashino Y, Hiramitsu S, Iwahashi N, Izumi C, Kimura	内科学 (第二)	Efficacy of azilsartan on left ventricular diastolic dysfunction compared with candesartan: J-TASTE randomized controlled trial.	Sci Rep/20230802	Original Article
24	Akao K, Imamura T, Tanaka S, Onoda H, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Prognostic Impact of Modified H2FPEF Score in Patients Receiving Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20230819	Original Article
25	Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	How to demonstrate clinical implication of 7-day continuous electrocardiographic patch monitoring.	J Arrhythm/20230829	Original Article
26	Doi Y, Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	Impact of Aerobic Interval Training on the Endothelial Function in Patients with Atrial Fibrillation.	Intern Med/20230901	Original Article
27	Fukuda N, Imamura T, Tanaka S, Kataoka N, Ushijima R, Ueno H, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Mid-Term Feasibility of Percutaneous Left Atrial Appendage Occlusion in Elderly Patients with Non-Valvular Atrial Fibrillation.	J Clin Med/20230918	Original Article
28	Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	How to assess cryoballoon ablation-related adverse events.	J Arrhythm/20230919	Original Article
29	Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	Detailed causality between high-sensitivity C-reactive protein and recurrence of atrial fibrillation after catheter ablation.	J Arrhythm/20230925	Original Article
30	Izumida T, Imamura T, Nakagaito M, Onoda H, Tanaka S, Ushijima R, Fujioka H, Kakeshita K, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Association Between Remote Dielectric Sensing and Body Mass Index.	Int Heart J/20230930	Original Article

31	Tomoda F, Koike T, Nitta A, Kurosaki H, Sugimori H, Oh-Hara M, Kinugawa K.	内科学(第二)	Urinary levels of cortisol but not catecholamines are associated with those of 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine in uncomplicated primary hypertension.	J Hypertens/20231001	Original Article
32	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Factors associated with procedure-related cardiac tamponade.	J Arrhythm/20231011	Original Article
33	Hida Y*, Imamura T, Kinugawa K.	内科学(第二)	Impact of Pemafibrate Therapy on Reducing Small Dense Low-Density-Lipoprotein-Cholesterol Levels in Patients with Hypertriglyceridemia.	J Clin Med/20231103	Original Article
34	Fujioka H, Imamura T, Koike T, Yokoyama S, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Sodium zirconium cyclosilicate hydrate reduces medical expenses compared with hemodialysis in patients with acute hyperkalemia.	Ren Replace Ther/20231115	Original Article
35	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Efficacy and feasibility of catheter ablation in elderly patients with atrial fibrillation.	Clin Cardiol/20231116	Original Article
36	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	How to assess haemodynamic impact of atrial fibrillation.	Eur Heart J Open/20231125	Original Article
37	Imamura T, Fujioka H, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K. (equal contribution).	内科学(第二)	Cardio-Splenic Relationship in Patients Receiving Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20231129	Original Article
38	Imamura T, Narang N, Kinugawa K.	内科学(第二)	Financial Implication of Sodium Zirconium Cyclosilicate Therapy in Patients with Systolic Heart Failure and Hyperkalemia.	Int Heart J/20231130	Original Article
39	Imamura T, Izumida T, Onoda H, Tanaka S, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic impact of remote dielectric sensing value following TAVR.	Heart Vessels/20231200	Original Article
40	Imamura T, Izumida T, Onoda H, Tanaka S, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Trajectory of pulmonary congestion during TAVR.	Cardiovasc Interv Ther/20231201	Original Article
41	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Unique feature of Brugada syndrome in children.	Pacing Clin Electrophysiol/20231201	Original Article
42	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	How to assess left atrial wall thickness and clinical outcomes in the candidates of cryoballoon ablation for atrial fibrillation.	J Interv Card Electrophysiol/20231211	Original Article
43	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	How to consider the indication of implantable cardioverter-defibrillator in the elderly patients.	Clin Cardiol/20231212	Original Article
44	Akao K, Imamura T, Tanaka S, Onoda H, Ushijima R, Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, Kinugawa K.	内科学(第二)	Prognostic Implication of Intestinal Wall Edema in Patients with Aortic Stenosis Receiving Trans-Catheter Aortic Valve Replacement.	J Clin Med/20231213	Original Article
45	Kataoka N, Imamura T.	内科学(第二)	Prognostic Impact of Acute Myocardial Infarction-Related Ventricular Tachyarrhythmia in the Current Era.	Circ J/20231219	Original Article
46	Kitayama S, Makino T, Yoto A, Mori S, Furukawa F, Torai R, Mizawa M, Shimizu T.	皮膚科学講座	Detection of FIP1L1-PDGFR fusion gene-positive cells in the skin lesion of a patient with hypereosinophilic syndrome.	Clin Exp Dermatol/20230322	Original Article

47	Yoto A, Shimada K, Takatsuka S, Takenouchi T.	皮膚科学講座	Systemic melanoma therapy at the end of life: A single institutional retrospective study in Japan.	JAAD Int/20230300	Original Article
48	Makino T, Mizawa M, Takemoto K, Yamamoto S, Shimizu T.	皮膚科学講座	Altered expression of S100 fused-type proteins in an atopic dermatitis skin model.	Exp Dermatol/20230330	Original Article
49	Kitayama S, Makino T, Hayashi M, Mizawa M, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu T.	皮膚科学講座	Usefulness of immunofluorescence overlay antigen mapping in the identification of autoantigen in anti-p200 pemphigoid.	J Dermatol/20230900	Original Article
50	Inuzuka R, Nii M, Inai K, Shimada E, Shinohara T, Kogiso T, Ono H, Otsuki SI, Kurita Y, Takeda A, Hirono K, Takei K, Yasukohchi S,	小児科学講座	Predictors of liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma among perioperative survivors of the Fontan operation.	Heart/20230127	Original Article
51	Hirono K.	小児科学講座	Cardiomyopathy: A New Perspective from Diagnostic Strategy.	J Clin Med/20230318	Original Article
52	Hirono K, Imamura T, Tsuboi K, Takarada S, Okabe M, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S.	小児科学講座	Optimal Heart Rate May Improve Systolic and Diastolic Function in Patients with Fontan Circulation.	J Clin Med/20230421	Original Article
53	Terashita S*, Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.	小児科学講座	Caesarean section and childhood obesity at age 3 years derived from the Japan Environment and Children's Study.	Sci Rep/20230421	Original Article
54	Kato T, Adachi Y, Tsuchida A, Matsumura K, Murakami S, Shimizu M, Wada T, Okabe H, Hashimoto K, Hosoya M, Inadera H; Japan	小児科学講座	Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study.	Pediatr Allergy Immunol/20230401	Original Article
55	Hata Y, Ichimata S, Yoshida K, Yamaguchi Y, Hirono K, Nishida N.	小児科学講座	Comprehensive pathological and genetic investigation of three young adult myotonic dystrophy type 1 patients with sudden unexpected death.	J Neurol/20231100	Original Article
56	Shimizu M, Kato T, Adachi Y, Wada T, Murakami S, Ito Y, Itazawa T, Adachi YS, Tsuchida A, Matsumura K, Hamazaki K, Inadera H;	小児科学講座	Maternal Dietary Vitamin D Intake during Pregnancy Is Associated with Allergic Disease Symptoms in Children at 3 Years Old: The Japan Environment and Children's Study.	Int Arch Allergy Immunol/20231100	Original Article
57	Sasabayashi D, Takahashi T, Takayanagi Y, Nemoto K, Ueno M, Furuichi A, Higuchi Y, Mizukami Y, Kobayashi H, Yuasa Y, Noguchi K, Suzuki	神経精神医学講座	Resting state hyperconnectivity of the default mode network in schizophrenia and clinical high-risk state for psychosis.	Cereb Cortex/20230620	Original Article
58	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, Higuchi Y, Mizukami Y, Akasaki Y, Nishiyama S, Furuichi A, Kobayashi H, Yuasa Y, Tsujii	神経精神医学講座	Anatomical variations in the insular cortex in individuals at a clinical high-risk state for psychosis and patients with schizophrenia.	Front Psychiatry/20230705	Original Article
59	Kainuma M, Kawakatsu S, Kim JD, Ouma S, Iritani O, Yamashita K, Ohara T, Hirano S, Suda S, Hamano T, Hieda S, Yasui M, Yoshiiwa	神経精神医学講座	Metabolic changes in the plasma of mild Alzheimer's disease patients treated with Hachimijiogan.	Front Pharmacol/20230712	Original Article
60	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, Furuichi A, Kobayashi H, Yuasa Y, Noguchi K, Suzuki M.	神経精神医学講座	Gross anatomical variations of the insular cortex in first-episode schizophrenia.	Schizophr Res/20231000	Original Article
61	Takahashi T, Sasabayashi D, Takayanagi Y, Kobayashi H, Torigoe M, Sakamoto K, Yuasa Y, Tsujii N, Noguchi K, Suzuki M.	神経精神医学講座	Birth season and gross brain morphology associated with early neurodevelopment in schizophrenia spectrum patients and healthy subjects.	Psychiatry Res Neuroimaging/20231000	Original Article
62	Mizukami T, Kawamura H, Kubo N, Sato H, Kawahara M, Adachi A, Matsui H, Suzuki K, Saitoh JI, Nakano T, Ohno T.	放射線診断・治療学講座	Carbon-ion radiotherapy for inoperable upper tract ureteral cancer.	Asia Pac J Clin Oncol/20230423	Original Article

63	Doai M, Nishino Y, Hayashi Y, Ito M, Matoba M.	放射線診断・治療学講座	Attenuation of gadolinium enhancement in pituitary gland on magnetic resonance imaging of patients with pediatric growth hormone deficiency.	BMC Med Imaging/20231117	Original Article
64	Naoki Yoshimura, Yasutaka Hirata, Ryo Inuzuka, Hisateru Tachimori, Akinori Hirano, Takahisa Sakurai, Shuichi Shiraishi, Hikoro	外科学1	Effect of procedural volume on the outcomes of congenital heart surgery in Japan.	J Thorac Cardiovasc Surg/20230400	Original Article
65	Mitsuhiro Matsuo, Toshio Doi, Masahito Katsuki, Yuichiro Yoshimura, Hisakatsu Ito, Kazuaki Fukahara, Naoki Yoshimura,	外科学1	Association between intraoperative pulmonary artery pressure and cardiovascular complications after off-pump coronary artery bypass surgery: a single-center observational study.	BMC Anesthesiol /20230000	Original Article
66	Seki S, Akeda K, Kaito T, Ohba T.	整形外科・運動器病学講座	What types of strategies are effective in lumbar spine surgery? Considering the etiology, imaging findings, and risk of complications.	J Clin med/20230000	Original Article
67	Seki S, Makino H, Yahara Y, Kamei K, Futakawa H, Yasuda T, Suzuki K, Nakano M, Kawaguchi Y.	整形外科・運動器病学講座	Rod rotation with outrigger is substantial for correcting apical hypokyphosis in patients with adolescent idiopathic scoliosis: Novel outrigger device for concave rod	J Clin Med/20230000	Original Article
68	Hirokawa T, Zukawa M, Makino H, Osada R, Kawaguchi Y.	整形外科・運動器病学講座	Therapeutic strategy for atypical ulnar fracture in long use of bisphosphonate: A systematic review.	J Orthop Sci/20230000	Original Article
69	Matsuo M, Doi T, Katsuki M, Yoshimura Y, Ito H, Fukahara K, Yoshimura N, Yamazaki M.	麻酔科学講座	Association between intraoperative pulmonary artery pressure and cardiovascular complications after off-pump coronary artery bypass surgery: a single-center observational study.	BMC Anesthesiol/20230406	Original Article
70	Tachinami H, Tomihara K, Yamada S, Ikeda A, Imaue S, Hirai H, Nakai H, Sonoda T, Kurohara K, Yoshioka Y, Hasegawa T, Naruse T,	歯科口腔外科学講座	Neutrophil-to-lymphocyte ratio as an early marker of outcomes in patients with recurrent oral squamous cell carcinoma treated with nivolumab: a pilot study.	Br J Oral Maxillofac Surg/20230500	Original Article
71	Imaue S, Osada R, Heshiki W, Sekido K, Zukawa M, Fujiwara K, Tomihara K, Noguchi M.	歯科口腔外科学講座	Presurgical imaging of the subscapular artery with three-dimensional-computed tomography angiography: Application to harvesting subscapular system free-flaps.	Clin Anat/20230509	Original Article
72	Mosaburo Kainuma, Shinobu Kawakatsu, Jun-Dal Kim, Shinji Ouma, Osamu Iritani, Ken-Ichiro Yamashita, Tomoyuki Ohara, Shigeki	和漢診療学講座	Metabolic changes in the plasma of mild Alzheimer's disease patients treated with Hachimijogan.	Front Pharmacol/20230612	Original Article
73	Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Sato T, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai	炎症性腸疾患内科	Trajectory analyses to identify persistently low responders to COVID-19 vaccination in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicentre controlled	J Gastroenterol/20231000	Original Article
74	Watanabe K, Peyrin-Biroulet L, Danese S, Fujitani Y, Faes M, Oortwijn A, Lindsay JO, Rogler G, Hibi T.	炎症性腸疾患内科	Impact of Concomitant Thiopurine on the Efficacy and Safety of Filgotinib in Patients with Ulcerative Colitis: Post hoc Analysis of the Phase 2b/3 SELECTION Study .	J Crohns Colitis/20231129	Original Article
75	Onoda S, Tsukura K, Satake T.	形成再建外科・美容外科	Size adjustment suture technique for lymphaticovenular anastomosis.	J Plast Surg Hand Surg./202312	Original Article
76	Onoda S, Satake T, Katsuragi R, Kobayashi K, Tsukura K, Tachibana G.	形成再建外科・美容外科	A Novel Doppler Flowmetry Shaft for Postoperative Monitoring after Head and Neck Reconstructive Surgery.	Plast Reconstr Surg Glob Open./20231000	Original Article
77	Onoda S, Satake T, Katsuragi R, Kobayashi K, Tsukura K, Tachibana G.	形成再建外科・美容外科	Relationship between rib cartilage resection and postoperative chest recession deformity in breast reconstruction.	J Plast Reconstr Aesthet Surg./20230800	Original Article
78	Hamada E, Onoda S, Satake T.	形成再建外科・美容外科	Efficacy of Lymphaticovenular Anastomosis for Secondary Upper Extremity Lymphedema: Treatment Strategies with Effects of Compression Therapy Discontinuation and Site-	Lymphat Res Biol./20230500	Original Article

79	Onoda S, Satake T, Hamada E.	形成再建外科・美容外科	Super-microsurgery technique for lymphaticovenular anastomosis.	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord./20230100	Original Article
80	Onoda S, Tsukura K.	形成再建外科・美容外科	Free jejunum transfers in oncologic reconstruction	Surgery in Practice and Science./20230900	Original Article
81	Keiichiro Kita, Shota Kuroiwa, Mayuko Saito, Maiko Kuroiwa, Azusa Sekijima, Daishi Ogawa, Seiji Yamashiro.	総合診療科	Clinical Presentations of Teenage Outpatients Encountered by General Internists in Japanese Hospitals: A Cross-Sectional Study.	Cureus/20230224	Original Article
82	Sugano A, Murakami J, Kataguchi H, Ohta M, Someya Y, Kimura S, Kanno A, Maniwa Y, Tabata T, Tobe K, Takaoka Y.	医療情報・経営戦略部	In silico binding affinity of the spike protein with ACE2 and the relative evolutionary distance of S gene may be potential factors rapidly obtained for the initial risk of SARS-CoV-2.	Microbial Risk Analysis/20231200	Original Article
83	Shimada Y, Ojima T, Takaoka Y, Sugano A, Someya Y, Hirabayashi K, Homma T, Kitamura N, Akemoto Y, Tanabe K, Sato	医療情報・経営戦略部	Prediction of visceral pleural invasion of clinical stage I lung adenocarcinoma using thoracoscopic images and deep learning.	Surgery Today/20231020	Original Article
84	Takeuchi F#, Sugano A#, Yoneshige A, Hagiyaama M, Inoue T, Wada A, Takaoka Y, Ito A. (# equal contribution).	医療情報・経営戦略部	Potential Contribution of Cell Adhesion Molecule 1 to the Binding of SARS-CoV-2 Spike Protein to Mouse Nasal Mucosa.	Cells Tissues Organs/20231030	Original Article
85	Itakura A, Satoh S, Aoki S, Fukushima K, Hasegawa J, Hyodo H, Kamei Y, Kondoh E, Makino S, Matsuoka R, Morikawa M, Nagamatsu T,	周産期母子センター	Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2020 edition.	J Obstet Gynaecol Res/20230100	Original Article
86	Hirono K, Imamura T, Tsuboi K, Takarada S, Okabe M, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S.	周産期母子センター	Optimal Heart Rate May Improve Systolic and Diastolic Function in Patients with Fontan Circulation.	J Clin Med/20230421	Original Article
87	Terashita S, Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.	周産期母子センター	Caesarean section and childhood obesity at age 3 years derived from the Japan Environment and Children's Study.	Sci Rep/20230421	Original Article
88	Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment, Children's Study Group.	周産期母子センター	Association between Cesarean section and neurodevelopmental disorders in a Japanese birth cohort: the Japan Environment and Children's Study.	BMC Pediatr/20230619	Original Article
89	Ibuki K, Imamura T, Nakaoka H, Takarada S, Okabe M, Ozawa S, Kinugawa K, Hirono K.	周産期母子センター	Serum Angiotensin-2 Levels in Pediatric Patients After Fontan Operation.	Am J Cardiol/20230915	Original Article
90	Fukasawa M, Watanabe T, Tanaka H, Itoh A, Kimura N, Shibuya K, Yoshioka I, Murotani K, Hirabayashi K, Fujii T.	病理部	Efficacy of staging laparoscopy for resectable pancreatic cancer on imaging and the therapeutic effect of systemic chemotherapy for positive peritoneal cytology.	J Hepatobiliary Pancreat Sci/20230926	Original Article
91	Shimada Y, Ojima T, Takaoka Y, Sugano A, Someya Y, Hirabayashi K, Homma T, Kitamura N, Akemoto Y, Tanabe K, Sato	病理部	Prediction of visceral pleural invasion of clinical stage I lung adenocarcinoma using thoracoscopic images and deep learning.	Surg Today/20231020	Original Article
92	Makino T, Mizawa M, Takemoto K, Yamamoto S, Shimizu T.	遺伝子診療部	Altered expression of S100 fused-type proteins in an atopic dermatitis skin model.	Exp Dermatol/20230330	Original Article
93	Kitayama S, Makino T, Hayashi M, Mizawa M, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu T.	遺伝子診療部	Usefulness of immunofluorescence overlay antigen mapping in the identification of autoantigen in anti-p200 pemphigoid.	J Dermatol/20230900	Original Article
94	Terashita S, Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.	遺伝子診療部	Caesarean section and childhood obesity at age 3 years derived from the Japan Environment and Children's Study.	Sci Rep/20230421	Original Article

95	Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment, Children's Study Group.	遺伝子診療部	Association between Cesarean section and neurodevelopmental disorders in a Japanese birth cohort: the Japan Environment and Children's Study.	BMC Pediatr/20230619	Original Article
96	Inuzuka R, Nii M, Inai K, Shimada E, Shinohara T, Kogiso T, Ono H, Otsuki SI, Kurita Y, Takeda A, Hirono K, Takei K, Yasukohchi S,	遺伝子診療部	Predictors of liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma among perioperative survivors of the Fontan operation.	Heart/20230127	Original Article
97	Hirono K.	遺伝子診療部	Cardiomyopathy: A New Perspective from Diagnostic Strategy.	J Clin Med/20230318	Original Article
98	Hirono K, Imamura T, Tsuboi K, Takarada S, Okabe M, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S.	遺伝子診療部	Optimal Heart Rate May Improve Systolic and Diastolic Function in Patients with Fontan Circulation.	J Clin Med/20230421	Original Article
99	Hata Y, Ichimata S, Yoshida K, Yamaguchi Y, Hirono K, Nishida N.	遺伝子診療部	Comprehensive pathological and genetic investigation of three young adult myotonic dystrophy type 1 patients with sudden unexpected death.	J Neurol/20231100	Original Article
100	Koji Ishikuro, Noriaki Hattori, Hironori Otomune, Kohta Furuya, Takeshi Nakada, Kenichiro Miyahara, Takashi Shibata, Kyo	リハビリテーション部	Neural Mechanisms of Neuro-Rehabilitation Using Transcranial Direct Current Stimulation (tDCS) over the Front-Polar Area.	Brain Sciences/20231123	Original Article
101	Koike T, Imamura T, Tomoda F, Ohara M, Fujioka H, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	透析部	Factors Associating with Non-Dipping Pattern of Nocturnal Blood Pressure in Patients with Essential Hypertension.	J Clin Med/20230110	Original Article
102	Fujioka H, Koike T, Imamura T, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	透析部	Implication of changes in xanthine oxidase activity following hemodialysis.	BMC Nephrol/20230116	Original Article
103	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, Fujioka H, Yamazaki H, Kinugawa K.	透析部	Impact of urine cyclic AMP relative to plasma arginine vasopressin on response to tolvaptan in patients with chronic kidney disease and heart failure.	Clin Exp Nephrol/20230208	Original Article
104	Fujioka H, Koike T, Imamura T, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	透析部	Prognostic impact of renal sinus fat accumulation in patients with chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol/20230424	Original Article
105	Fujioka H, Imamura T, Koike T, Yokoyama S, Kakeshita K, Yamazaki H, Kinugawa K.	透析部	Sodium zirconium cyclosilicate hydrate reduces medical expenses compared with hemodialysis in patients with acute hyperkalemia.	Ren Replace Ther/20231115	Original Article
106	Akai R, Yunoki T, Otsuka M, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Incidence of Blepharoptosis After Pars Plana Baerveldt 350 Glaucoma Implant Surgery by a Single Surgeon.	Ophthalmic Plast Reconstr Surg/20230202	Original Article
107	Katayama N, Tojo N, Otsuka M, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Comparison of the results of Ex- PRESS® surgery for primary open-angle glaucoma between high and low preoperative intraocular pressure.	Int Ophthalmol/20230304	Original Article
108	Honda Y, Miyakoshi A, Tojo N, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Improvement of the loss of corneal endothelial cells by relocating the tip of the Baerveldt® implant tube from the anterior chamber to the vitreous cavity.	Int Ophthalmol/20230306	Original Article
109	Otsuka M, Tojo N, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Corneal endothelial cell loss after EX-PRESS surgery depends on site of insertion, cornea or trabecular meshwork.	Int Ophthalmol/20230605	Original Article
110	Takeue K, Yunoki T, Mihara M, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Saccade Analysis in Patients With Orbital-Wall Fractures Without Diplopia.	J Craniofac Surg/20230620	Original Article

111	Mihara M, Hayashi A, Kakeue K, Tamura R.	データ科学・AI研究推進センター	Changes in saccadic eye movement and smooth pursuit gain in patients with acquired comitant esotropia after strabismus surgery.	Journal of Eye Movement Research/20230922	Original Article
112	Otsuka M, Arai K, Yoshida T, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Inhibition of retinal ischemia-reperfusion injury in rats by inhalation of low-concentration hydrogen gas.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol/20231018	Original Article
113	Shimada Y, Ojima T, Takaoka Y, Sugano A, Someya Y, Hirabayashi K, Homma T, Kitamura N, Akemoto Y, Tanabe K, Sato	データ科学・AI研究推進センター	Prediction of visceral pleural invasion of clinical stage I lung adenocarcinoma using thoracoscopic images and deep learning.	Surgery Today/20231020	Original Article
114	Takeuchi F#, Sugano A#, Yoneshige A, Hagiyama M, Inoue T, Wada A, Takaoka Y, Ito A. (# equal contribution).	データ科学・AI研究推進センター	Potential Contribution of Cell Adhesion Molecule 1 to the Binding of SARS-CoV-2 Spike Protein to Mouse Nasal Mucosa.	Cells Tissues Organs/20231030	Original Article
115	Miyakoshi A, Hayashi A, Oiwake T.	データ科学・AI研究推進センター	Parameters of a basic ophthalmic examination that can ensure proper timing of corneal crosslinking in patients with keratoconus.	Int Ophthalmol/20231101	Original Article
116	Soga N, Tanaka S, Inoue M, Inoue T, Hayashi A, de Juan E Jr, Kadonosono K.	データ科学・AI研究推進センター	Macular vessel density in central retinal artery occlusion with retinal arterial cannulation.	Sci Rep/20231108	Original Article
117	Fukushima M, Hayashi A, Kusaka S, Kamei M, Tsuboi K.	データ科学・AI研究推進センター	Use of a Backflush Needle with a Silicone Tip Cannula to Embed Lamellar Hole-associated Epiretinal Proliferation.	Retina/20231117	Original Article
118	Inoda S, Takahashi H, Maruyama-Inoue M, Ikeda S, Sekiryu T, Itagaki K, Matsumoto H, Mukai R, Nagai Y, Ohnaka M.	データ科学・AI研究推進センター	Incidence and Risk factors of Intraocular Inflammation after Brolucizumab Treatment in Japan: A Multicenter AMD Study.	Retina/20231128	Original Article
119	Sugano A, Murakami J, Kataguchi H, Ohta M, Someya Y, Kimura S, Kanno A, Maniwa Y, Tabata T, Tobe K, Takaoka Y.	データ科学・AI研究推進センター	In silico binding affinity of the spike protein with ACE2 and the relative evolutionary distance of S gene may be potential factors rapidly obtained for the initial risk of SARS-CoV-2.	Microbial Risk Analysis/20231200	Original Article
120	Yunoki T, Otsuka M, Yamazaki H, Hayashi A.	データ科学・AI研究推進センター	Lower eyelid position before and after blepharoptosis repair.	Orbit/20231215	Original Article
121	Kato A, Nakagome I, Kise M, Yoshimura K, Tanaka N, Nash RJ, Fleet GWJ, Kobayashie Y, Ikeda H, Okada T, Toyooka N.	薬剤部	Design and pharmacological chaperone effects of N-(4'-phenylbutyl)-DAB derivatives targeting the lipophilic pocket of lysosomal acid glucosidase.	J Med Chem/20230713	Original Article
122	Enkaku A, Chujo D, Kamigishi M, Inagawa S, Matsukoshi S, Sakai W, Takikawa A, Fujisaka S, Tobe K.	臨床研究管理センター	Short-term recovery of insulin secretion in response to a meal is associated with future glycemic control in type 2 diabetes patients.	J Diabetes Investig/20231227	Original Article
123	Yagi K, Okazaki S, Ohbatake A, Nakaya M, Liu J, Arite E, Miyamoto Y, Ito N, Nakano K, Yamaaki N, Honoki H, Fujisaka S, Chujo D.	臨床研究管理センター	Negative correlation between organ heteroplasmy, particularly hepatic heteroplasmy, and age at death revealed by post-mortem studies of m.3243A > G cases.	Mol Genet Metab/20231100	Original Article
124	Shimada Y, Ojima T, Takaoka Y, Sugano A, Someya Y, Hirabayashi K, Homma T, Kitamura N, Akemoto Y, Tanabe K, Sato	臨床研究管理センター	Prediction of visceral pleural invasion of clinical stage I lung adenocarcinoma using thoracoscopic images and deep learning.	Surg Today/20231020	Original Article
125	Takeuchi F#, Sugano A#, Yoneshige A, Hagiyama M, Inoue T, Wada A, Takaoka Y, Ito A. (# equal contribution).	臨床研究管理センター	Potential Contribution of Cell Adhesion Molecule 1 to the Binding of SARS-CoV-2 Spike Protein to Mouse Nasal Mucosa.	Cells Tissues Organs/20231030	Original Article
126	Sugano A, Murakami J, Kataguchi H, Ohta M, Someya Y, Kimura S, Kanno A, Maniwa Y, Tabata T, Tobe K, Takaoka Y.	臨床研究管理センター	In silico binding affinity of the spike protein with ACE2 and the relative evolutionary distance of S gene may be potential factors rapidly obtained for the initial risk of SARS-CoV-2.	Microb Risk Anal/20231200	Original Article

127	Yamamoto M, Okuno T, Piao JL, Shimizu M, Miyamoto K, Nukui T, Kinoshita M, Koda T, Haryuni RD, Mochizuki H, Sugimoto T, Nakatsuji Y.	脳神経内科	Identification of double-stranded DNA in the cerebrospinal fluid of patients with acute neuromyelitis optica spectrum disorder.	Journal of Clinical Neuroscience 2023/20230100	Original Article
128	Araki M, Matsui K, Takagi K, Kanaya E, Sekine S, Nagasawa S, Watanabe T, Miwa T, Hirano K, Igarashi T, Tanaka H, Shibuya K.	病理診断学講座	A case of squamous cell carcinoma of the breast achieved a pathological complete response after dose-dense AC + dose-dense PTX.	Surg Case Rep/20230802	Case report
129	Fujioka H, Kakeshita K, Imamura T, Arisawa Y, Yokoyama S, Yamazaki H, Koike T, Minamisaka T, Hirabayashi K, Kinugawa K.	病理診断学講座	Pembrolizumab-induced Acute Tubulointerstitial Nephritis Accompanying Fanconi Syndrome and Type 1 Renal Tubular Acidosis.	Intern Med/20230629	Case report
130	Hounoki H, Onose T, Yamazaki M, Asano R, Yamaguchi S, Shinoda K, Tobe K, Noguchi A, Hirabayashi K.	病理診断学講座	A Case Report of Anti-TIF1-gamma Antibody-Positive Dermatomyositis Concomitant with Small Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Urinary Bladder.	Case Rep Rheumatol/20231220	Case report
131	Araki M, Mathui K, Takagi K, Kanaya E, Sekine S, Nagasawa S, Watanabe T, Miwa T, Hirano K, Igarashi T, Tanaka H, Shibuya K.	病理診断学講座	A case of squamous cell carcinoma of the breast achieved a pathological complete response after dose-dense AC + dose-dense PTX.	Surg Case Rep/20230802	Case report
132	Reina Tsuda, Toshiki Kido, Ikuma Okada, Aoi Kobiyama, Masatoshi Kawataka, Miho Yamazaki, Ryoko Asano, Hiroyuki Hounoki, Koichiro	内科学 (第一)	Thrombotic thrombocytopenic purpura that developed 3 years after systemic lupus erythematosus had remitted with rituximab therapy.	Mod Rheumatol Case Rep/20230610	Case report
133	Yamaguchi S, Yamazaki M, Kido T, Hounoki H, Muraishi N, Tajiri K, Tanaka S, Tobe K, Shinoda K.	内科学 (第一)	A case of vanishing bile duct syndrome during treatment of microscopic polyangiitis with avacopan.	Rheumatology (Oxford)/20230612	Case report
134	Onose T, Kido T, Okada I, Yamazaki M, Hounoki H, Makino T, Yamauchi N, Matsushita T, Tobe K, Shinoda K.	内科学 (第一)	An autopsy case of anti-MDA5 antibody-positive amyopathic dermatomyositis with an initial manifestation of panniculitis on the left upper arm.	Mod Rheumatol Case Rep/20230621	Case report
135	Hounoki H, Onose T, Yamazaki M, Asano R, Yamaguchi S, Shinoda K, Tobe K, Noguchi A, Hirabayashi K.	内科学 (第一)	A Case Report of Anti-TIF1- γ Antibody-Positive Dermatomyositis Concomitant with Small Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Urinary Bladder.	Case Rep Rheumatol/20231212	Case report
136	Nakamura M, Imamura T, Wakakuri E, Onoda H, Ushijima R, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Initial clinical experience of intravenous tolvaptan sodium phosphate in patients with congestive heart failure.	J Cardiol Cases/20230106	Case report
137	Murai S, Kakeshita K, Imamura T, Koike T, Fujioka H, Yamazaki H, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Malignant Hypertension and Bilateral Primary Aldosteronism.	Intern Med/20230201	Case report
138	Izumida T, Imamura T, Tanaka S, Joho S, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Therapeutic Strategy for Patients with Concomitant Pulmonary Artery Hypertension and Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy: A Rare Case Report.	Medicina (Kaunas)/20230218	Case report
139	Sobajima M, Imamura T, Fukuo A, Ueno Y, Onoda H, Ueno H, Kinugawa K.	内科学 (第二)	The no-flow phenomenon following drug-coated balloon angioplasty in a patient with chronic limb-threatening ischemia and a history of below-knee amputation.	J Cardiol Cases/20230301	Case report
140	Izumida T, Imamura T, Ushijima R, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Combination Treatment of Balloon Pulmonary Angioplasty and Direct Oral Anticoagulant in a Patient with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Complicated by Protein S	Medicina (Kaunas)/20230509	Case report
141	Kataoka N, Imamura T, Nakamura M, Kinugawa K.	内科学 (第二)	A Clinical Diagnosis of Laminopathy without Systolic Dysfunction: When does Nuclei Malformation Start?.	Intern Med/20230614	Case report
142	Fujioka H, Kakeshita K, Imamura T, Arisawa Y, Yokoyama S, Yamazaki H, Koike T, Minamisaka T, Hirabayashi K, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Pembrolizumab-induced Acute Tubulointerstitial Nephritis Accompanying Fanconi Syndrome and Type 1 Renal Tubular Acidosis.	Intern Med/20230628	Case report
143	Kataoka N, Nagase S, Imamura T, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Dynamics of unipolar J-ST elevation coupled to bipolar delayed potentials on the epicardium in Brugada syndrome: a case report.	Eur Heart J Case Rep/20230803	Case report

144	Kakeshita K, Imamura T, Noguchi A, Murai S, Fujioka H, Yamazaki H, Koike T, Kinugawa K.	内科学 (第二)	Nephrotic syndrome induced by aortic regurgitation with Takayasu arteritis: an autopsy case with long-term clinical follow-up.	CEN Case Rep/20230922	Case report
145	Imamura T.	内科学 (第二)	How to Assess the Degree of Pulmonary Congestion in Patients with Congestive Heart Failure.	J Clin Med/20230415	Review
146	Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	Brugada Syndrome: A Comprehensive Review of Fundamental and Electrophysiological New Findings.	J Clin Med/20231018	Review
147	Kataoka N, Imamura T.	内科学 (第二)	Catheter Ablation for Tachyarrhythmias in Left Ventricular Assist Device Recipients: Clinical Significance and Technical Tips.	J Clin Med/20231115	Review
148	Kitayama S, Makino T, Totai R, Mizawa M, Shimizu T.	皮膚科学講座	Dermoscopic and histological findings in Cronkhite-Canada syndrome: a report of two cases.	Int J Dermatol/20230300	Case report
149	Mizawa M, Makino T, Oshima M, Hayashi M, Shimizu T.	皮膚科学講座	Two cases of generalized granuloma annulare successfully treated with an excimer laser.	J Dermatol/20230500	Case report
150	Kitayama S, Makino T, Fujita K, Mori S, Furukawa F, Kagoyama K, Mizawa M, Shimizu T.	皮膚科学講座	Ganciclovir induced drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms.	Skin Health Dis/20230713	Case report
151	Takemoto K, Makino T, Kagoyama K, Furukawa F, Mizawa M, Shimizu T.	皮膚科学講座	Immune thrombocytopenic purpura caused by immune checkpoint inhibitors for uveal malignant melanoma.	J Dermatol/20230900	Case report
152	Mizawa M, Hara H, Makino T, Shimizu T.	皮膚科学講座	Clinical, Genetic, and Epidemiological Findings of Erythropoietic Protoporphyrinemia in Japan.	PHOTOMEDICINE AND PHOTOBIOLOGY/20231000	Review
153	Takarada S, Yoshimura N, Yo N, Hirono K.	小児科学講座	A rare case of 1q31.1-q32.1 deletion with congenital heart disease.	J Cardiol Cases/20230325	Case report
154	Nakashima A, Furuta A, Yamada K, Yoshida-Kawaguchi M, Yamaki-Ushijima A, Yasuda I, Ito M, Yamashita S, Tsuda S.	産科婦人科学講座	The Role of Autophagy in the Female Reproduction System: For Beginners to Experts in This Field.	Biology (Basel)/20230226	Review
155	Saito S, Tsuda S, Nakashima A.	産科婦人科学講座	T cell immunity and the etiology and pathogenesis of preeclampsia.	J Reprod Immunol/20230900	Review
156	Nagao K, Yamashita S, Ebe R, Naruto N, Ito H, Nagura S, Doi T, Fukahara K, Yoshimura N.	麻酔科学講座	Intraoperative Heparin Resistance after Administration of Andexanet Alfa to Manage an Internal Iliac Artery Aneurysm Rupture: A Case Report.	Ann Vasc Dis/20230000	Case report
157	Yoshida M, Ito H, Yamazaki M.	麻酔科学講座	Intraoperative Transesophageal Echocardiography Evaluation of Tricuspid Valve Re-repair for Ebstein's Anomaly.	Cureus/20231010	Case report
158	Suzuki N, Ito H, Sakai S, Hirano K, Tamura K.	麻酔科学講座	Perioperative Management of Congenital Diaphragmatic Hernia Repair in a Patient With Univentricular Circulation: A Case Report.	Cureus/20230104	Case report
159	Tachinami H, Tomihara K, Takatsuka D, Ikeda A, Yamada S, Noguchi M.	歯科口腔外科学講座	Complete response to cetuximab plus paclitaxel therapy in nivolumab-refractory patients in distant metastasis of squamous cell carcinoma of the tongue: a report of two cases.	Cureus/20231121	Case report

160	Mukaino A, Fujimoto M, Kainuma M, Nakane S, Shimada Y.	和漢診療学講座	Combination of immunotherapy and Kampo medicines for a patient with autoimmune autonomic ganglionopathy.	Traditional & Kampo Medicine/20230120	Case report
161	Seki T, Baba K, Hayashi T, Furuta R, Hirotsawa H, Mitsui T, Maesaka H, Takasawa S, Miwa T, Tanaka K, Nakatsuji Y.	脳神経内科	A Case of Lung Cancer Wherein Durvalumab Induced Both Anti-CRMP-5 Antibody-related Paraneoplastic Neurological Syndromes and Neurological Adverse Events.	Intern Med/20230800	Case report
162	Hirotsawa H, Maesaka H, Matsuda N, Nukui T, Nakane S, Nakatsuji Y.	脳神経内科	Paraneoplastic cerebellar degeneration after improvement of Lambert-Eaton myasthenic syndrome.	Neurol Clin Neurosci./20231100	Case report
163	Tanabe K, Homma T, Matsui S, Tuchiya T, Saji H.	呼吸器外科	Metachronous biolateral immunoglobulin G4-related pleuritis: A case report and literature review.	Respirol Case Rep/20230816	Case report
164	Koji Ishikuro, Noriaki Hattori, Hironori Otomune, Kohta Furuya, Takeshi Nakada, Kenichiro Miyahara, Takashi Shibata, Kyo	リハビリテーション科	Neural Mechanisms of Neuro-Rehabilitation Using Transcranial Direct Current Stimulation (tDCS) over the Front-Polar Area.	Brain Sciences/20231118	Review
165	Takarada S, Yoshimura N, Yo N, Hirono K.	周産期母子センター	A rare case of 1q31.1-q32.1 deletion with congenital heart disease.	J Cardiol Cases/20230325	Case report
166	Tamura K, Niimi H, Nagaoka M, Yoshida T.	周産期母子センター	Rapid detection of neonatal sepsis using the melting temperature mapping method.	Pediatr Neonatol/20230901	Case report
167	Araki M, Mathui K, Takagi K, Kanaya E, Sekine S, Nagasawa S, Watanabe T, Miwa T, Hirano K, Igarashi T, Tanaka H, Shibuya K,	病理部	A case of squamous cell carcinoma of the breast achieved a pathological complete response after dose-dense AC + dose-dense PTX.	Surg Case Rep/20230802	Case report
168	Fujioka H, Kakeshita K, Imamura T, Arisawa Y, Yokoyama S, Yamazaki H, Koike T, Minamisaka T, Hirabayashi K, Kinugawa K.	病理部	Pembrolizumab-induced Acute Tubulointerstitial Nephritis Accompanying Fanconi Syndrome and Type 1 Renal Tubular Acidosis.	Intern Med/20240215	Case report
169	Hounoki H, Onose T, Yamazaki M, Asano R, Yamaguchi S, Shinoda K, Tobe K, Noguchi A, Hirabayashi K.	病理部	A Case Report of Anti-TIF1-gammaAntibody-Positive Dermatomyositis Concomitant with Small Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Urinary Bladder.	Case Rep Rheumatol/202301200	Case report
170	Araki M, Mathui K, Takagi K, Kanaya E, Sekine S, Nagasawa S, Watanabe T, Miwa T, Hirano K, Igarashi T, Tanaka H, Shibuya K,	病理部	A case of squamous cell carcinoma of the breast achieved a pathological complete response after dose-dense AC + dose-dense PTX.	Surg Case Rep/20230802	Case report
171	Kitayama S, Makino T, Totai R, Mizawa M, Shimizu T.	遺伝子診療部	Dermoscopic and histological findings in Cronkhite-Canada syndrome: a report of two cases.	Int J Dermatol/20230300	Case report
172	Mizawa M, Makino T, Oshima M, Hayashi M, Shimizu T.	遺伝子診療部	Two cases of generalized granuloma annulare successfully treated with an excimer laser.	J Dermatol/20230500	Case report
173	Kitayama S, Makino T, Fujita K, Mori S, Furukawa F, Kagoyama K, Mizawa M, Shimizu T.	遺伝子診療部	Ganciclovir induced drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms.	Skin Health Dis/20230713	Case report
174	Takarada S, Yoshimura N, Yo N, Hirono K.	遺伝子診療部	A rare case of 1q31.1-q32.1 deletion with congenital heart disease.	J Cardiol Cases/20230325	Case report
175	Tamura K, Niimi H, Nagaoka M, Yoshida T.	遺伝子診療部	Rapid detection of neonatal sepsis using the melting temperature mapping method.	Pediatr Neonatol/20230900	Case report

176	Mizawa M, Hara H, Makino T, Shimizu T.	遺伝子診療部	Clinical, Genetic, and Epidemiological Findings of Erythropoietic Protoporphyrin in Japan.	PHOTOMEDICINE AND PHOTOBIOLOGY/20231000	Review
177	Fujioka H, Kakeshita K, Imamura T, Arisawa Y, Yokoyama S, Yamazaki H, Koike T, Minamisaka T, Hirabayashi K, Kinugawa K.	透析部	Pembrolizumab-induced Acute Tubulointerstitial Nephritis Accompanying Fanconi Syndrome and Type 1 Renal Tubular Acidosis.	Intern Med/20230628	Case report
178	Kakeshita K, Imamura T, Noguchi A, Murai S, Fujioka H, Yamazaki H, Koike T, Kinugawa K.	透析部	Nephrotic syndrome induced by aortic regurgitation with Takayasu arteritis: an autopsy case with long-term clinical follow-up.	CEN Case Rep/20230922	Case report
179	Hayashi R	臨床腫瘍部	Adjuvant or neoadjuvant therapeutic strategy for resectable non-small cell lung cancer.	Respir Investig. /20230300	Review

計 179 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	有・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 富山大学医の倫理に関する規則 1 目的及び設置 2 所掌事項 3 組織 4 委員長 5 議事等 6 課題審査 7 申請手続及び判定の通知 8 異議申立手続及び判定の通知 9 研究等実施計画の変更 10 専門委員会 等	
倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 富山大学利益相反マネジメント規則 - 臨床研究部会 1 臨床研究部会 2 所掌事項 3 組織 4 部会長 5 議事 6 意見聴取等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年3回(本審査) 1,159件(迅速審査)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年20回
・ 研修の主な内容 2023年度 第1～第6回 富山大学研究倫理講習会 2023年度 研究倫理ビデオセミナー	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

富山大学附属病院では、以下の全 19 領域の専門研修プログラムを実施しています。

- 内科専門研修プログラム
- 小児科専門研修プログラム
- 皮膚科専門研修プログラム
- 精神科専門研修プログラム
- 外科専門研修プログラム
- 整形外科専門研修プログラム
- 産婦人科専門研修プログラム
- 眼科専門研修プログラム
- 耳鼻咽喉科専門研修プログラム
- 泌尿器科専門研修プログラム
- 脳神経外科専門研修プログラム
- 放射線科専門研修プログラム
- 麻酔科専門研修プログラム
- 臨床検査専門研修プログラム
- 病理専門研修プログラム
- 救急科専門研修プログラム
- 総合診療科専門研修プログラム
- リハビリテーション科専門研修プログラム
- 形成外科専門研修プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	172人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	
佐藤 勉	内科	血液内科診療部門長	30年	
今井 千速	小児科	小児科長	30年	
清水 忠道	皮膚科	皮膚科長	37年	
高橋 努	精神科	精神科長	27年	
芳村 直樹	外科	第一外科診療部門長	36年	

川口 善治	整形外科	整形外科長	35年	
中島 彰俊	産科婦人科	産科婦人科長	24年	
林 篤志	眼科	眼科長	35年	
森田 由香	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科長	25年	
北村 寛	腎泌尿器科	泌尿器科長	29年	
黒田 敏	脳神経外科	脳神経外科診療部門長	37年	
野口 京	放射線科	放射線科診療部門長	32年	
高澤 知規	麻酔科	麻酔科長	27年	
仁井見 英樹	臨床検査科	輸血・細胞治療部長	25年	
平林 健一	病理診断科	病理診断科長	21年	
土井 智章	救急科	災害・救命センター長	23年	
北 啓一朗	総合診療科	総合診療科 准教授	33年	
服部 憲明	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	30年	
佐武 利彦	形成外科	形成外科長	34年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
1) ・研修の主な内容 新人病院職員を対象に「保険診療とDPC」と題し研修を実施。保険医療機関及びDPC 病院並びに大学病院の職員としての使命感等を認識し、業務への理解を深めることを目的とし て実施。 ・研修の期間・実施回数 令和5年4月3日 ・研修の参加人数 116名
2) ・研修の主な内容 「正しい保険診療について-査定や減点のない、適正なレセプト作成のために-」と題し、 外部講師による保険診療にかかる講習会を実施。保険診療への理解を深め、保険診療の質的 向上と適正化に努めることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数 令和6年3月11日 ・研修の参加人数 70名
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	林 篤志
管理担当者氏名	副病院長 (診療担当) 安田一朗、薬剤部長 加藤敦、医事課長 神田寛之 放射線部長 野口京、看護部長 丸池小百合、病院企画課長 日水栄

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院企画課
		各科診療日誌	各診療科・病棟
		処方せん	病院情報システム (電子カルテ)
		手術記録	病院情報システム (電子カルテ)
		看護記録	病院情報システム (電子カルテ)
		検査所見記録	病院情報システム (電子カルテ)
		エックス線写真	病院情報システム (電子カルテ)
		紹介状	病院情報システム (電子カルテ)
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム (電子カルテ)
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項	規則第二十二條の三第三項に	杉谷地区事務部総務課 職員支援室 病院企画課, 医事課, 医療支援課 研究振興課 病院企画課 病院企画課 医療支援課 医事課、薬剤部
		従業者数を明らかにする帳簿	
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療支援課 医療支援課 医療支援課 医療支援課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	医療支援課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院企画課
		職員研修の実施状況	医療支援課， 病院企画課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院企画課
管理者が有する権限に関する状況	病院企画課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	杉谷地区事務部病院企画課長 日水 栄
閲覧担当者氏名	杉谷地区事務部病院企画課 課長補佐 酒井 文寿
閲覧の求めに応じる場所	杉谷地区事務部病院企画課
閲覧の手続の概要 原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときには、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p>有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 医療安全の組織と体制に関する基本的事項 3. 安全管理に係る研修に関する基本方針 4. 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針 	
<p>医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年14回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 1号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 2号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 4.5号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理及び医療事故に関すること。 	

医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： 1. 新人病院職員研修 2. 春季医療安全管理等研修会 3. 医薬品・医療機器・医療安全に関する講習会 4. 医療安全講習会「トラブルを未然に防ぐカルテの書き方」 5. 医療安全講習会「演題1 安全な輸血療法のために」 <ul style="list-style-type: none"> 「演題2末梢血液一般検査・血液像検査へのご理解とご協力のお願い～より正確な結果報告のために」 「演題3 医療機器管理における周知事項について」 6. 医療安全講習会「各部署の医療安全活動報告会」 	
<p>医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ コアメンバーミーティング(1回/週)では、週報をもとに事例の確認および対策の検討等を行う。 ・ 医療安全管理部ミーティング(2回/月)では、重要事例や警鐘事例について、対策およびその周知方法等について検討する。 ・ 重大事例や警鐘事例については、特別事例検討会・医療事故調査委員会等を通して、対策およびその周知方法等について検討する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における感染対策に関する基本的な考えかた 2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針 	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。 	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人病院職員研修 2. 春季医療安全管理等研修会 3. 院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の重要性」 4. 院内感染対策講習会「新薬剤耐性（AMR）対策 アクションプランと抗菌薬適正使用」 	
感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○SSIサーベイランスの対象診療科を拡大し、結果をフィードバックし改善策を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象診療科を3診療科から5診療科に拡大した。 ・ 各診療科に結果を書面でフィードバックした。 <p>○デバイスサーベイランスの対象部署を拡大した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CLABSIは、通年実施部署に追加し、全部署を対象に2回/年実施した。 	

○手指衛生の推進

- ・リンクナースが、2回/年手指衛生の直接観察法を実施し、結果をフィードバックした。
- ・手指衛生目標回数に満たなかった部署に対し、当該部署看護師長とリンクナースと協働し、手指衛生直接観察法を実施した。その後、使用回数が増加した。

○抗菌薬適正使用を推進する。MEPMおよびTAZ/PIPCについてDe-escalationを推進した。

- ・TAZ/PIPCの前例調査を行い使用が長期となる原因とアウトカムの解析をした。その結果をもとに8日以上の使用症例に対し介入を行い適正使用を推進した。

○POT法を活用し、MRSA感染対策を支援した。

- ・NICU/GCUの新規MRSAについて全株解析し、水平感染は認めなかった。
- ・新規MRSA3件検出した病棟で菌株を解析し、水平感染は認めなかった。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	<input type="checkbox"/> 有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容： 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内の報告，行政機関への報告等）に関する事項</p> <p>○病棟配置薬に関する手順の変更に関する事項 ○麻薬事故発生時の対応（保存方法及び報告等のルール）に関する事項</p>	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <p>・ 手順書の作成（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成している。</p> <p>○実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認している。確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告している。</p>	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○未承認薬等に関する情報収集では海外での発売状況、当該疾患に関するガイドラインへの記載の有無、症例報告、論文等の情報を収集する。（臨床倫理委員会での審査資料等を参考にする）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，PMDA及び学術誌等からの情報を広く収集・管理している。 得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行った後、全職員に対し情報の周知を行い、確認報告書を記載・提出させている。 ○病院内に臨床倫理委員会を設置し、薬剤部及び医療安全管理部と連携し未承認薬（未承認新規薬剤は担当部門を設置し管理している）、適応外・禁忌使用薬剤及び院内製剤についての申請及び審査機能を強化し情報の共有を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年95回
<p>・ 研修の主な内容： 新規導入時研修会、定期研修会、臨時研修会として下記の医療機器に関連する研修を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 2. 人工呼吸器 3. 血液浄化装置 4. 除細動装置（AEDを除く。） 5. 閉鎖式保育器 6. 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 7. その他医療機器 	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 中央管理機器は貸出返却ごとの点検実施。その他医療機器は日常点検、始業点検（使用前）、使用中点検、定期点検を実施している。特に保守点検が必要と考えられている下記の機器をはじめ、機器の危険度などを考慮し実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 2. 人工呼吸器 3. 血液浄化装置 4. 除細動装置（AEDを除く。） 5. 閉鎖式保育器 6. X線CT装置 7. 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器） 8. 磁気共鳴画像診断装置（MRI装置） 9. その他機器 	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 一部記載</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション科 経頭蓋直流電気刺激装置 対象：健常人 2. 脳神経内科 直流電気刺激装置(tDCS) 対象：多発性硬化症・視神経脊髄炎・パーキンソン病 3. 第二内科 Remote Dielectric Sensing（電磁式胸水最測定器） 対象：うっ血性心不全 4. 病・耳鼻咽喉科 頭部傾斜適正化装置（TPAD） 対象：慢性めまい 5. 光学医療診療部 病変サイズ測定仮想スケール：病変サイズ測定必要患者 6. 光学医療診療部 撮影部位管理システム：上部消化管内視鏡検査実施者 7. 光学医療診療部 止血支援ナビゲーション：早期胃がんへ内視鏡的粘膜下層剥離術実施患者 8. 耳鼻咽喉科、頭頸部外科 Meniett：右メニエール病 <p>未承認医療機器については、関係部署より申請された機器の情報収集を行っている</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の安全使用に必要な周知事項については、諸会議（医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等）で周知している。更に、必要に応じてCE Letterや電子カルテ掲示板でも通知している。病院内で使用する医療機器（研究用も含む）の購入やレンタル開始時に、経理調達課と協力し、納入業者より事前に機器情報等の収集を行い、機器登録を行ったうえで使用場所へ納品する。この流れの中で医療機器管理センターから導入時研修の必要性の有無確認や開催に繋げている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年7月20日に医療安全管理指針を改正し、医療安全管理責任者を配置した。医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括することを定めた。</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有（3名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>（1）医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び見直し</p> <p>（2）医薬品の業務手順に基づく業務の実施・確認</p> <p>（3）病院従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施</p> <p>（4）医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施</p> <p>（5）医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○「富山大学附属病院インフォームド・コンセントに関する要項」に基づき実施している。</p> <p>説明者氏名、患者氏名及び同席者氏名の診療録への記載、質問の回答や患者及び同席者の反応などを、診療録等に記載することについて指導を行っている。</p>	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>患者基本情報として、主訴・現病歴の記載。</p> <p>毎日、医師記録、看護記録が記載されている。</p> <p>入院から退院までの診療内容の要点の適切な記載。</p> <p>手術記録の適切な記載。</p> <p>その他のスキャンされた医療文書についての適切な作成。</p>	
医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（０）名、兼任（２５）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１１）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（４）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 富山大学附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）に係る事務。 事故その他の管理室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導。 医療に係る安全管理に係る連絡調整。 医療に係る安全確保のための対策の推進。 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング。（画像・病理診断レポート、手術室オカレンス、塞栓症、血栓症等） 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の立案、実施及び認識状況の確認。 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作 	

成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録。
 8. 委員会との連携状況，医療安全に係る職員研修の実績，その他の医療安全管理者の活動実績の記録。
 9. 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施。
 10. その他医療の安全管理に関すること。

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。
 高難度新規医療技術が適正に提供されているかどうかを確認すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 未承認新規医薬品等の使用の適否等に関すること。
 未承認新規医薬品等が適正に使用されているかどうかを確認すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）

<p>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p>
<p>入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<p>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 226 件</p> <p>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 150 件</p> <p>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容</p> <p>重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。</p> <p>医療事故対応の意思決定・報告・公報に関すること。</p> <p>全死亡症例の確認に関すること。</p>
<p>他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<p>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：和歌山県立医科大学）・無）</p> <p>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：筑波大学病院）・無）</p> <p>・技術的助言の実施状況</p> <p>対応が必要な助言なし。</p>
<p>当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<p>・体制の確保状況</p> <p>医療福祉サポートセンターを設置している。</p>

<p>職員研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>1. 承認要件に係る講習会</p> <p>2. 医療安全講習会「トラブルを未然に防ぐカルテの書き方」</p> <p>3. 医療安全講習会「演題1 安全な輸血療法のために」</p> <p style="padding-left: 40px;">「演題2末梢血液一般検査・血液像検査へのご理解とご協力をお願い～より正確な結果報告のために」</p> <p style="padding-left: 40px;">「演題3 医療機器管理における周知事項について」</p> <p>4. 医療安全講習会「各部署の医療安全活動報告会」</p>

(注) 前年度の実績を記載すること (の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者 令和6年1月15日 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2023年度 特定機能病院管理者研修」)

医療安全管理者 令和6年2月6日 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2023年度 特定機能病院管理者研修」)

医薬品安全管理責任者 令和6年2月6日 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2023年度 特定機能病院管理者研修」)

医療機器安全管理責任者 令和6年2月6日 受講済

(公益財団法人 日本医療機能評価機構 「2023年度 特定機能病院管理者研修」)

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価を2024年1月30日~2月1日に受審

2024年8月23日 認定の結果通知あり

2024年9月13日 審査結果報告書受理

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

富山大学附属病院HPの専用ページにて公表

・評価を踏まえ講じた措置

現時点では特になし

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針に関する重要事項、病院の予算及び収支状況、医療安全に係る重要事項、諸規則の改正等 ・審議の概要の従業者への周知状況 富山大学附属病院連絡会議に各部署の代表者が出席し、その代表者が部署内の職員に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 富山大学ホームページへの掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無) 令和5年度より、富山大学附属病院運営協議会を設置し、本院の運営状況や地域医療の活動状況等について、外部有識者から助言をいただいている。 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
林 篤志	○	医師	病院長
関根 道和		医師	医学部長
松谷 裕二		薬剤師	薬学部長
早川 芳弘		薬剤師	和漢医薬学総合研究所長
猪又 峰彦		医師	呼吸器内科長
絹川 弘一郎		医師	循環器内科長，腎・高血圧内科長
安田 一朗		医師	消化器内科長
渡邊 賢治		医師	炎症性腸疾患内科長
佐藤 勉		医師	血液内科長
清水 忠道		医師	皮膚科長
今井 千速		医師	小児科長
高橋 努		医師	神経精神科長
辻井 農亜		医師	こどものこころと発達診療科長
野口 京		医師	放射線診断科長
齋藤 淳一		医師	放射線治療科長
芳村 直樹		医師	心臓血管外科長，小児循環器外科長
土谷 智史		医師	呼吸器外科長
藤井 努		医師	消化器外科長
松井 恒志		医師	乳腺科・内分泌外科長
吉岡 伊作		医師	小児外科長
黒田 敏		医師	脳神経外科長
秋岡 直樹		医師	脳血管内治療科長

赤井 卓也		医師	小児神経外科長
川口 善治		医師	整形外科長
中島 彰俊		医師	産科婦人科長
島 友子		医師	小児婦人科長
森田 由香		医師	耳鼻咽喉科長
北村 寛		医師	泌尿器科長
佐武 利彦		医師	形成再建外科・美容外科長
高澤 知規		医師	麻酔科長
山田 慎一		医師	歯科口腔外科長
貝沼 茂三郎		医師	和漢診療科長
中辻 裕司		医師	脳神経内科長
高村 昭輝		医師	総合診療科長
山本 善裕		医師	感染症科長
土井 智章		医師	救急科長
服部 憲明		医師	リハビリテーション科長
平林 健一		医師	病理診断科長
仁井見 英樹		医師	検査・輸血細胞治療部長
高岡 裕		医師	医療情報・経営戦略部長
吉田 丈俊		医師	周産母子センター長
林 龍二		医師	臨床腫瘍部長
長島 久		医師	医療の質推進部長,医療安全管理部長
加藤 敦		薬剤師	薬剤部長
丸池 小百合		看護師	看護部長
中田 由紀子		事務	杉谷地区事務部長
中條 大輔		医師	臨床研究管理センター教授
寺元 剛		薬剤師	臨床研究管理センター特命教授

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
富山大学ホームページへの掲載
- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容となっている。
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
副病院長 9 名
経営・救急補佐, 診療・接遇・働き方改革, 教育, 研究, 救急・集中治療部,
医療安全・医療の質・機能評価, 薬事, 看護, 広報・研修・事務
病院長補佐 8 名
診療・働き方改革, 患者サービス・接遇, 経営, 教育, 研究, 包括的脳卒中センター担当,
がんゲノム医療センター担当, 医学教育担当, 医療の質担当, 地域医療担当
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学病院長会議主催の病院経営次世代リーダー養成塾に参加
院内にて, LDP (リーダーディベロップメントプログラム) に若手教員を公募し, 育成を行
っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて確認を行う。</p> <p>○学長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講じる。</p> <p>○実施結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>○本学のホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
高村 博之	金沢医科大学 病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有 (無)	1
三善 郁代	富山県立大学 看護部		医療を受ける者	有 (無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
国立大学法人富山大学コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス委員会を年2回程度開催しており、「役職員のためのコンプライアンスの手引き」の策定・啓蒙や、コンプライアンスに関する研修会の企画・立案を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 · 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 · 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 · 無)
- ・ 公表の方法
富山大学ホームページへの掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人富山大学役員会を設置し、附属病院の運営方針、予算等について審議を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年28回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年25回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 富山大学ホームページへの掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 医療安全講習会で周知している。また、全職員に配布済みの「医療安全・感染対策マニュアル (ポケット版)」に掲載し、職員に対し周知させている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者様のみならず、地域の関連病院へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>痛みセンター、膵臓胆道センター、がんゲノム医療センター、乳がん先端治療・乳房再建センター、総合がんセンター、ジェンダーセンター，こども医療センター，IBDセンター，呼吸器・胸郭センター等を設置し、診療科をまたいで横断的に治療を行っている。</p>	